

大里小だより

2月号

令和6年2月21日

※学校だよりは、校長が作成しています。

小学生にとっての読書の大切さ

2月8日に第3回学校運営協議会を開催しました。学校から、4月に令和5年度学校経営計画として公表したことについて、この1年間の取組はどうだったのか（※学校自己評価）を説明して、委員のみなさんからご意見をいただきました。

特に、「家での読書習慣をつける」という学校のねらいの一つが、達成できたとは言えない児童・保護者アンケートの結果だったことから、どうしたらいいのか考えていただきました。学校の反省は、「いつも手元に読みかけの本がある状態」であるようにどの学年も取り組んできましたが、それが家での読書に結びつくようにする取組が弱かったことです。お恥ずかしいことですが、ねらいが教員で共有できていなかったということです。

委員のみなさんからは、「学校では隙間時間に読書を推進しているが、家で子どもたちは隙間時間にゲームをするのだろう。ゲームでなく読書をするようにしていきたい。」と、いくつかの提案がありました。

その1【子どもの隣で親も読書をする】

大人がスマホでゲームをして暇をつぶしている姿を見せている姿を見せると、子どもも倣います。読書をしている大人の姿を見せることが大事です。「何読んどの？」と子どもが話しかけてきたら、しめたものです。

その2【教員は授業の中で子どもの興味を広げる工夫をする】

科学・歴史・教科書に出てくる物語の作者についてなど、子どもたちは興味を持ったら、詳しく知りたくなります。そんな時、本に向かうのではないのでしょうか。「いや、今の子はインターネットで検索することに向かうよ。」という話も出ましたが、小学生がネット上の文章を読んで理解するのは難しいことです。図書室に揃えているのは、子ども向けに書かれた本ばかりです。まだまだ電子書籍にはなっていませんので、手に取ってページをめくってほしいと思います。

その3【親の読みかけの本や子どもに読ませたい本をさりげなく置いておく】

環境を整えておくことで、環境が子どもに働きかけてくれます。いいえ、好奇心のある子どもの方が環境に働きかけるのかもしれませんが、強制してしまうと根っこで読書嫌いになってしまい、親の手の離れる高校生になると一切本を読まなくなるそうです。根っこで読書好きになってほしいですね。本を読まない時期があったとしても、

人生においては、また読み出すときがやってきます。ご家庭は、現在どのような環境ですか。

すべての学びの原点には、言葉があります。お子さんが幼かった頃のことを思い出してみてください。親子の会話で、いかに子どもが学んでいったか。大人が多彩な言葉を用いていれば子どもはそれを自然と学んでいきますが、会話だけに使われる語彙には限界があります。だから、読書（※幼い時は読み聞かせ）で語彙や表現を学ぶことが必要なのです。

小学生にとっていかに読書が大切か、他にもよく言われていることをお伝えします。

【集中力が養われる】漠然とテレビやYouTubeを見ているよりも、集中して文字を追う、深く考えられる子になります。

【想像力が豊かになる】立ち止まりながら、いろんなことを考えます。人の気持ちを理解できるようになり、コミュニケーション力が高まります。

【言語能力がつく】子どもにとって知らない言葉が出てきても前後の文脈で想像できます。語彙力や読解力、会話力、文章力が向上します。

【知識が増える】どんどん連鎖的に好奇心が高まり、子どものうちにたくさんの引き出しが作られることは、大きくなって大事な財産になります。

【気持ちが安定する】真剣に本を読み、夢中になることで心が落ち着きます。

【生きる力がつく】いろんなことを頭の中で体験したり、新しい知識を身につけたり、興味を広げたりすることで、勉強という枠にとらわれない、より豊かに生きていくための力がつきます。

学校の自己評価

学校運営協議会で報告をした学校の自己評価について、「家での読書習慣をつける取組」以外のことについてお知らせします。

○授業の質、家庭学習の質を高める取組

子どもたちが家で「今日〇限目、たくさんの先生が来たよ。」と話したことがあると思いますが、教員が互いの授業を見合って意見交換する研修を、＜一人当たり年2回×教員数＞実施しました。子ども同士が学び合うようにすることで、より理解を深めたり考えを豊かにしたりしていくことを実現できたと思っています。児童アンケートで、児童自身も手ごたえを感じていることが分かりました。

また、学年に応じた家庭学習の時間を、およそ8割の児童が守ることができたことを予定帳〇から担任は把握しました。宿題をしてまだ余る時間は、全学年で読書をするように、3年生以上では自主学習に計画的に取り組むように薦めてきました。子どもたちは、自分の状況に応じて考え、家庭学習に取り組んでいます。宿題の量については、早

くできそうな子の時間を想定して決めてはいませんので、お子さんが早くできているようなら、ぜひ読書につながるようにご家庭の協力をお願いします。

○子どもたちが堂々と意見を述べ、積極的に行動できるようにする取組

昨年度、人と違うことを気にして安心して自分の考えを話せない傾向が見られた低学年でしたが、「人それぞれ感じ方や意見が違って当たり前なんだ。むしろそうじゃないとおかしいんだ。」ということを知るようになり取り組んできた結果、今年のアンケートからは子どもたちの成長を感じることができました。

授業では、子ども同士が対話する場面を日常にするよう取り組んできました。そのような場面によって、「よく分かる」「考えが深まる」と感じてくれる子どもが昨年度より増えました。

課題は、学校生活で困ったことが起きた場合でも、子ども同士相談をして解決できていくようであってほしいので、授業以外の場面でも子ども同士が対話する経験を十分積めるように配慮していかなければいけないということです。そのための計画をもっておくことと、機会を逃さない姿勢でいることを申し合わせました。

○学校・家庭・地域の役割を明確にして児童の成長に寄与する取組

学校運営協議会において、児童が安全に登下校できるように課題であることを学校から提案し、話し合ってもらってきました。通学路、保護者の送迎、見守り隊の方と保護者との関係など、話し合ったことをPTA 会長さんをはじめ、委員のみなさんがそれぞれに具体的な活動に結び付けてくださいました。

来年度は、見守り隊会長の小野さんにも委員に加わっていただきます。

○学校の働き方改革の取組

保護者のみなさんのご理解とご協力により、次のことを実施しました。

欠席連絡の方法に、グーグルフォームからの入力を加えたことにより、朝の学校への電話が減り、始業前の教職員の慌ただしさが改善されました。また、学校への電話は午前8時から午後6時までということも、引き続き守ってくださっていることに感謝しています。

放課後の時間を長くして教職員が定時に業務を終えられるようにするために、試みとして3学期に、6限目をカットして5限とするなどした日を3回設けました。教職員はいつもより早く業務を終えることができました。来年度は、市内すべての小学校がそろえて、学期始めと終わりに短縮日課とする日を増やしますので、ご協力ください。

花粉が飛び始めたようです

ニュースで日本人の40～50%がスギ花粉症だと報じていましたが、本校の児童も44%がアレルギー性鼻炎と診断され、通院中や経過観察中です。たいへんだ～、お大事に。